

富士市立高等学校 学校運営協議会		第 38 回	会議要旨 (令和 7 年度)
開催日 令和 7 年 1 1 月 1 4 日 金曜日 開 会 1 4 時 0 0 分 閉 会 1 6 時 3 0 分		会議場 富士市立高等学校 2 階 会議室 オンライン併用	
出席者 【学校運営協議会委員】 菅野大樹 木野正美 櫻井祥行 塩田真吾 中村孝一 畑 裕美 吉村直也 井上美千子、豊島実侑、橋本仁委員は所用のため欠席 【市立高校教員】 飯嶋雄三 青木伸介 見城喜哉 石村俊樹 望月佑輔 後藤大輝 佐野大悟 永井厚史 佐野かおり 永田裕一 杉山秀幸 鈴木誉野 増田竜一 藤原恵里子 相庭健人 平原和美 【市立高校職員】・【市教育総務課】 榎 俊英 吉野正敏 永尾倫子 滝 陽介 遠藤真輝		* 敬称略	
開会			
会長挨拶 ・ 前回の訪問での授業参観や学校からの報告で地域連携や探究に積極的に取り組む様子を理解した。 本日は前期からの成長を確認し、活動報告や授業を踏まえて課題や気づきを共有し、学校の発展に 寄与する会議としたい。			
校長挨拶 ・ 本校では今月末から総合探究科はマレーシア、ビジネス科はシンガポール、スポーツ探究科は香港 で海外研修を行い、異文化体験を通じて価値観の多様化と自己のアイデンティティの確立を目指す。 ・ 一方で、生徒数減少により富士地区の高校は 10 年後に 5 校から 3 校への再編が検討されており、 魅力ある学校づくりが課題である。教育面では、総合探究活動「究タイム」を中心に、ディベート や市役所プラン、自己分析とスピーチなどを通じて非認知能力を育成し、経済界が求める人材像に 対応している。アンケート結果からは、入学時から卒業時まで非認知能力が大きく向上し、授業 や部活動も成長に寄与していることが確認された。今後も大学進学率だけでなく、主体的に考える 力を重視する教育を推進していく。			
学校活動の近況 ・ 7 月 31 日に中学生対象の体験入学を実施し、529 名が参加した。午前・午後の二部構成で授業や部 活動見学、個別相談を行い、各学科における模擬授業や、生徒自身が企画した内容が好評であった。 ・ 9 月 19 日に市役所プランの前期発表会が実施した。地域課題やジェンダー、AI など 8 テーマで発 表があり、外部参加者からも評価された。これらの取り組みは本校の魅力を示す重要な活動である。			

<p>・9月27日にはオープンスクールを開催し、公開授業や体育館での課題研究、朗読劇、市役所プラン、自分スピーチなど多彩な発表を実施し、保護者の参加も増加した。また、体育祭は生徒主体で運営され、保護者からも高評価を得ている。</p> <p>部活動結果について</p> <p>・部活動は運動部・文化部とも活発に活動している。運動部ではチアリーダー部が全国大会に出場し、陸上部の大崎選手がU20日本選手権で好成績を収め、サッカー部の庵原選手が国民スポーツ大会に静岡県選抜として出場した。これらの活躍により12月に教育長表彰を受ける予定である。</p> <p>・文化部も地域交流事業に積極的に参加し、吹奏楽やビジネス部などがイベントで高評価を得ている。今後も地域と連携し、部活動の充実を図る方針である。</p>	
<p>授業参観 学校内を見学しながら、各授業を参観していただいた。</p>	
<p>授業参観に関する質疑応答</p>	
(意見・質問等)	・複数の生徒が同時に文字入力を進めている様子を見て、ファイルを共有するシステムに驚いた。これは全員参加型の共同作業を可能にし、従来の入力役が議論に参加しない状況を解消するシステムであると感じた。
(意見・質問等)	・そのシステムは一般的なものか、また具体的にGoogleスライドなどのどのツールを使用しているのか。
(回答)	・Googleスライドやスプレッドシート等で共有を図り、全員が同時に入力できる。作成したスライドは他グループや教員とも共有可能であり、教員によるコメント付与や採点なども行われる。
(意見・質問等)	・生徒が事故と保険の関係から積極的に議論し、新たな税金について考える姿勢が良かった。大人の視点からは未熟な点があっても、自ら考え抜いて結論に至ろうとする高校生たちの姿は非常に頼もしい。
(意見・質問等)	・大きな額の計算をAIに尋ねて即座に答えを得ていることに驚き、ICT活用の日常化を実感した。探究活動においては、生徒自身が課題を「自分ごと」として捉えることが何より重要であると改めて感じた。
(意見・質問等)	・ベルテックス静岡との連携授業では、生徒が積極的に提案していく姿勢が非常に良いと感じた。最初から諦めず、やってみて結果が駄目だったという経験を含め、積極的に行動する姿勢が良い。
(意見・質問等)	・企業との商品開発だけでなく、地域貢献や社会貢献に発展させたり、ファンを増やすための体験活動(コト)と結びつけたりすることで、授業がさらに面白くなると考える。
(意見・質問等)	・例えば、直接的な国家予算の知識やビジネスの知識だけでなく、生徒が「提案」「プレゼン」「アイディア発表」といった経験を通じて、非認知能力や協働する力などを身につける効果もあるかと思う。
<p>学校からの報告</p> <p>◇広報活動に関する報告</p>	

- ・中学校で実施している説明会では、探究学習を本校の「売り」としているため、パンフレットの説明ではなく、なぜ探究が必要なのか、これから求められる力、その力をどうつけるかといった内容を簡単な授業形式で展開している。
- ・定期的な広報活動として、放課後の学校見学会や 7 月 31 日に実施された一日体験入学（約 500 名参加）がある。特に体験入学では、生徒会生徒による施設案内や、各学科の生徒・卒業生による模擬授業の評価が非常に高かった。
- ・小学校・中学校の授業にも積極的に参加し、総合的な学習の時間におけるプレゼンテーションの指導やアドバイスを行っている。吉原北中、今泉小学校、田子浦中学校などで実績があり、これらの依頼は年々増加傾向にあり、地域の小中学校で本校の探究学習が認知されてきていることがうかがえる。
- ・他校からの視察受け入れも積極的に行っており、2 学期以降、長野県の白馬高校や岐阜県の大垣西高校、来週は長岡向陵高校が訪問予定である。
- ・1 年生へのアンケート結果から、10 月以降に受験を決めた生徒が約半数を占めており、今後の学校見学会や個別相談会の重要性が示されている。また、家族や知人からの勧めが受験の大きな要因となっており、これは本校の教育活動に対する関係者の満足度の高さの現れであると考察できる。学校ホームページの充実度も評価されている。

◇探究学習に関する報告

- ・前期の「究タイム」では、1 年生がソフトバンク社の AI チャレンジ、2 年生が市役所プラン、3 年生が自分スピーチを実施した。市役所プランからは、吉永第 1 小学校の児童とレクリエーションを行う放課後子供教室の実施など、具体的な実現企画が生まれている。
- ・9 月に実施された集中研修では、各学科・学年で特色ある研修が行われた。
- ・総合探究科：1 年生は桐蔭横浜大学・JICA・産業能率大学、2 年生は校内イングリッシュキャンプ、3 年生は社会課題スタディツアーに参加した。
- ・ビジネス探究科：1 年生はディズニーアカデミー・伊藤忠食品物流研修、2 年生は JAL 研修、3 年生は市内の企業でのインターンシップを行った。
- ・スポーツ探究科：1 年生はカーリング研修、2 年生はキャンプ研修、3 年生は富士登山を実施した。
- ・研修以外の授業でも、家庭基礎でのベルテックス静岡との弁当開発、スポーツ探究科でのサッカーの試合運営、ビジネス探究科でのキクラゲを使った商品開発など、社会とつながる学びを積極的に展開している。ベルテックス静岡とは授業の枠を超えた試合運営への協力も行われており、また、桐蔭横浜大学と高大接続協定を結ぶことで、授業外での探究学習の推進連携を強化している。

◇令和 7 年度進路状況報告

- ・就職については例年並みで 23 名が内定を得ており、公務員希望者の結果は 11 月中に判明する予定である。進学面では、国公立の四年制大学では都留文科大学教育学部 1 名が合格した。私立大学では常葉大学に多数、合格している。探究学習を軸にした入試で結果が出ており、立命館大学経済学部には、2 年次の市役所プランで放置竹林問題を探究し、その研究意欲を志望理由とした生徒が合格している。その他、スポーツ推薦や看護・医療系の専門学校からも多数の合格が出ている。公募

制推薦の結果は 12 月に出るため、結果が出次第改めて報告する。

学校からの報告に対する質疑応答

- | | |
|----------|---|
| (意見・質問等) | ・本校でも淹指導主事によるプレゼン指導があり、中学生の発表も見たが、高校生は自信を持って発表していると感じた。他校も探究に注力し、総合型選抜が増える中で、市立高校は先駆けているが今後、一層の磨き上げが必要である。 |
| (意見・質問等) | ・長年の市役所プランへの関わりを通じて、近年はアイデア出しだけでなく、実際に現場を見て実施し、改善するという探究活動の具体的な流れが確立していると感じた。 |
| (意見・質問等) | ・市立高校の生徒には、放課後子ども教室の講師を務めてもらっているが、4 回ある中で異なる生徒が務め運営してもらっており、生徒層の厚さを感じた。また、高校生議会では本校生徒が空き家問題について徹底的に調べ上げ、その探究力の高さが同席した市議会議員も感心していた。 |
| (意見・質問等) | ・探究活動が充実していることは承知しているが、長年の取り組みの中で、今後変えていきたいと考えている点があれば教えてほしい。 |
| (回答) | ・探究学習の大きなプログラムは固定化されているが、担当者会議で中身は毎週ブラッシュアップしている。今後は生徒の要望も取り入れながら、より良い探究の形を教員も生徒と共に探究し続ける意向である。 |
| (意見・質問等) | ・資料の括弧書きの数字（不合格者数）を見て、特に私立大学で厳しい受験状況であることに驚いた。年々これほどの不合格者が出るものなのか？ |
| (回答) | ・総合型選抜は年々倍率が高まっており、特に常葉大学の今年の倍率は 4 倍程度であった。本校は面接・小論文指導を強化し、他校と比較して常葉大学での合格率は高かったが、より高みへ挑戦する生徒が多いため不合格者が出てしまうのは避けられない。 |
| (意見・質問等) | ・不合格者数が多いことに驚いたが、総合型選抜が増加傾向にあるという現状を聞くと、これは仕方がない。しかし、生徒と協力して合格率をより高める教育に尽力してほしい。 |
| (回答) | ・倍率上昇もあるが、生徒が目標を高く設定し、チャレンジしている結果不合格となるケースも多いと感じている。失敗から学び、次に生かしていくこと自体は良いこと。推薦でも必ず合格するわけではない時代であり、むしろ一般選抜の方が楽な場合もある。生徒は学びたい分野に挑戦する傾向が強く、不合格者が出るのは避けられないが、これを糧に次の選抜に向けた準備をしている。 |
| (意見・質問等) | ・チャレンジして不合格になった生徒への今後の丁寧な指導を引き続きお願いしたい。大学入試では複数回挑戦し合格するケースも多いため、生徒の頑張りを期待する。 |
| (意見・質問等) | ・進路決定の入試方法の割合（一般、総合型、学校推薦）はどのような状況か？ |
| (回答) | ・入試の方法別で言えば、年内入試（総合型や推薦など）が約 8 割を占めている。一般受験へのサポート、就職試験の指導も並行し、長丁場の進路指導を行っている。 |

◇学校からの報告

各学科研修に関する報告

① 総合探究科

- ・1年生：横浜市を中心に研修を行った。桐蔭横浜大学では講義受講や大学生との交流を実施し、JICA 横浜では国際交流・支援に関する講義や移民資料館の見学を通じて、移民の歴史と現状を学んだ。その後、班別研修を経て、最終日は産業能率大学で大学生と協力し、高校生をターゲットとしたペットボトルの考案とプレゼンテーション活動を行った。生徒は知識を実社会に応用する力を高めた。
- ・2年生：イングリッシュキャンプを実施し、8カ国からのメンターとワークショップや日本文化の説明、プレゼンテーションを通じて交流した。生徒の振り返りからも充実した時間であったことがうかがえる。この時のプレゼン内容は、海外探究研修（マレーシア）での発表に向けてブラッシュアップされている。
- ・3年生：社会課題スタディツアーを実施した。「癌」「育児」「LGBT」「多文化共生」の4テーマに分かれ、東京近郊で研修を行った。業者企画だけでなく、関連する市役所の方々からの講義も取り入れ、高校生が社会課題を自分事として捉えることを目的とした有意義な学習活動であった。
- ・海外探究研修については、昨年と同様にマレーシアを予定している。現地の高校を訪問し、高校生と共に授業を受けたり、本校代表者と現地代表者によるプレゼンテーションなどの交流を行う。また、Sunway University を訪問し、大学の説明を受けたり、日本人留学生との交流を予定している。教育機関以外ではクアラルンプールの下町情緒を残すカンポンバルを訪問し、歴史学習や現地の人々との交流を行う予定である。

② ビジネス探究科

- ・1年生：初日は富士商工会議所青年部の協力で自己理解講座と企業座談会を実施した。生徒からは自己理解の深化や、富士市の企業が何をしているのかを初めて知ったという意見があった。2日目と3日目は東京方面へ宿泊研修に出かけ、ディズニーアカデミーでの研修（パーク研修含む）や、伊藤忠食品相模原 IDC での物流研修、カップヌードルミュージアム横浜でのマーケティング研修を行った。ディズニーアカデミーは楽しさが先行し、研修色が薄くなった点が次年度の課題である。物流研修では、普段利用する商品が手元に届くまでのプロセスを知り、興味を持つ生徒が多かった。
- ・2年生：JAL スカイミュージアムとテクニカルセンターで研修を行い、海外探究研修（シンガポール）への雰囲気を高めた。海外研修で英語を使うにもかかわらず、英語研修が組み込まれていない点が次年度の課題である。
- ・3年生：富士商工会議所の協力のもと、市内の企業で3日間のインターンシップを実施した。希望職種と合致しない場合もあったが、生徒は仕事内容を知り、進路選択について深く考える有意義な機会となった。アンケートでは、集中研修が市立高校でしか体験できない活動であり、視野が広がったという意見が多く、高い満足度が得られた。
- ・海外探究研修について、昨年と同様にシンガポールとマレーシアで実施する。現地の大学生との交流（B&S プログラム）、マレーシアのジョホールバルでの現地校との交流、シナラ村で文化体験、鹿島ディベロップメントへの訪問等を予定している。

スポーツ探究科

- ・1年生：日帰りでカーリングを体験した。これに3学期のスキー実習を合わせ1単位としている。
- ・2年生：2泊3日でキャンプ実習を行った。林業体験（伐採、巻き割り）を通じて職業体験をしたり、SUP体験やうどん打ち、釣り体験を実施した。テント張りや自炊といったキャンプの基本も行いつつ、生涯スポーツにつながるようなグランピングやキャンプの楽しさを知る体験を増やした。
- ・3年生：富士登山を実施した。天候に左右されやすいが、今年は全員が登頂を達成した。過酷ではあるが一度は体験させたい活動である。全学年を通しての野外活動は、今後も継続してこの内容で実施していく予定である。
- ・海外探究研修については、昨年と同様に香港で研修を実施する。現地では太極拳や、ドラゴンボードといった普段体験できないスポーツを体験する。また、現地の高校を2日間訪問し、一緒に授業を受けたり、スポーツ交流を実施する。昨年同様、夕食も現地の生徒とグループでとり、観光を行うなど交流を深める予定である。

学校からの報告に対する質疑応答

(意見・質問等)	・集中研修の資料にある黄色いマーカーが何を意味するのか？
(回答)	・黄色いマーカーは、その活動が校外に出て行う活動であることを示している。
(意見・質問等)	・ビジネス探究科のディズニーアカデミーの対面研修について、具体的にどのような形式で実施されたのか？
(回答)	・基本的に、園内の会議室でキャストの方が生徒に対して講演形式で話や指導をする方式で実施した。
(意見・質問等)	・総合探究科3年生の9月2日の予定が「ありの可能性あり調整中」と記載されていたが、最終的にどうなったのか？
(回答)	・資料の訂正前バージョンをそのまま掲載してしまい申し訳ない。9月2日の午後は例年の業者研修に加え、内容に関連した市役所の方からの講義を実施した。
(意見・質問等)	・ビジネス探究科のインターンシップについて、生徒と企業のマッチングが難しい部分もあると思う。実際の運営としては受け入れ事業所数や、1事業所あたりの生徒数などはどのように調整しているのか？
(回答)	・今年は31社が協力しており、事業所によって受け入れ人数は異なるため、人数で割り振っている。例えば生徒の希望が花屋などに集中し、建設・土木に変更を依頼する等、マッチングに課題がある。特に女子生徒の希望が特定の業種に集まるため、他の業種への調整が必要となり、マッチングが難しいと感じている。
(意見・質問等)	・ビジネス探究科のインターンシップ（31社）は、先生たちが独自に開拓するのか、それとも商工会の協力によって開拓されたものか？
(回答)	・教員独自で開拓しているのではなく、富士商工会議所の青年部の方々にお願いをしている。青年部の方々が各企業・事業所に受け入れの協力をお願いして下さっている。
(意見・質問等)	・海外探究研修について、各学科で行き先が異なるが、金額も異なるのか？
(回答)	・学科ごとに多少の誤差はあるが、ほぼ同額になるようにしている。

(意見・質問等)	・資料にあった探究の効果データが、入学時から卒業時までの非認知能力の大きな変化を示しており、探究の時間の効果を裏付けている。これを学校広報でさらに広く紹介できると良いのではないかな。
次回日程について	
閉会	